アクセスログの役割(その6)

放研 OB 皆様　（2016 年 2 月 11 日木曜日）
71 年工学部通信工学科卒の荻原　健一です。(その 1)
恐らく話が長くなりそうなので(その 1)とさせて頂きました。
皆様の「デンスケ」「スリーピーラグーン」「アマチュア無線」等のキーワードに反応してしまい，どうしても我慢できなくて無謀にも参加させて頂きました。
思えば，「ジェットストリーム⇒FM 東海⇒東海大学⇒東海大学付属高校」という単純な図式でこの世界？に入りました。
高校では「エレクトロニクス研究会」でしたが“807”や“6146”を求めて秋葉中心生活でした。(JA1WON)
当時，八重洲無線のトランシーバ FT-100（1.9-29.7/50/144/430MHz　SSB/CW/AM/FM 100W）が注文待ち状態でしたが，何とその 5 号機を義兄（NEC マイクロ波事業部-JA1BAL）の力で購入しました。
FT-100 は 10 数万円でしたが，義兄に言わせると“NECで作ったら 100 万円はする“という名器でした。
（そういう義兄は立川にあった米軍払い下げショップでコリンズ等のとんでもない無線機を 3-4 台持っていました。何と壊れてただ同然の無線機を自前で修理して使っていました。ちなみに英語は短波放送で独学マスターし，NEC 親入社員の英語教育もやっていました）
今でも覚えているのは成人式当日も FT-100 の VOX（送受信の音声切り替え機能なのでベットに籠ったまま送受信可能）で親しい無線仲間と交信していました。(このため成人式には参加できず・・・)

大学生になる時に私は都区内に居住していましたが，唯一人「望星学塾」に入塾しました。地方出身者でも定員オーバーで入れない人も結構いましたので，特例でした。但し，裏入塾ではありません！

高校 3 年の時に何と“建学の精神をより深く学ぶために家から出て望星学塾で研鑽したい“という作文を書きました。(単に家から出たいだけでしたが・・)
これが効いたのだと思いますが，塾生になって円形食堂のある望星学塾で 4 人部屋で 1 年間過ごすことになりました。

入学式の 1 週間ほど前に荷物をもって入塾し，この結果，入学式の前に湘南校舎に入っていたので，真っ先に 1 号館上の放研部室に行って入部希望しました。
当然入学式，オリエンテーションの前でしたので“入部希望第一号”だと思いましたが何と私の前に 1 人入部希望した“ふざけた奴”がいることを聞いて驚愕？しました。
それが今でもお付き合いしている北海道上士幌出身の千葉公正さんでした。
その後，彼とは幾多の珍道中をすることになりました。
もう朝の 5 時を過ぎましたので(その 1)はここまでとしますが，当時ジャスにも傾倒していた私にはスリーピーラグーンはいかんとも間の抜けた（失礼！）曲に感じていましたが，今では“こんな素晴らしい曲を誰が選曲したの？”というほど大好きで，この曲を聴くと涙が出そうになります。
（家内は“単に年のせいでは”の一言ですが私は断じてそうではないと思っています）
その 1 終わり

荻原さん，皆さん　（2016 年 2 月 11 日木曜日）

皆様
そろそろ終息に近いかな？なんて思っていたところ，うれしいことにまた，新しい参入。
荻原さんの「6146」でまたしても余分なことを言いたくなりました。
私はアマチュア無線は 50M・FM オンリーでやっていました。
当時の家は西から南に開けていて，東はあまり良くないロケーションでした。
コールサインは JH1XVL です。これも本当は JR1 を狙って申請したのですが，JH1 の最後に引っかかってしまいました。
送信機に「6146 パラプッシュ」，結構頑張ってくれる球で無理をしましたね。結構出力も出ましたしね。
アンテナは最初はグランドプレーンを 10mあげていましたが，上記ロケーションの関係で伊豆あたりのモービルも比較的楽に交信できましたが，うまく追えなくて結局，ルソーの 6 エレ・スタック（垂直偏波）を 12mあげて毎晩のようにやってました。
　3 億円事件の時はしょっちゅう警察が訪ねて来て，無線機やアンテナを見ては帰って行きました。
そのうち，「その無線機は警察無線は入りますか？」とか聞かれるようになって，やがて来ると上がり込んでお茶を飲みながら，世間話するようになりました。とても面白いお巡りさんでした。（笑）
少し若い方々の参入を狙って･･･
真空管からトランジスタに切り替わる頃，よく言われたことに「トランジスタは音が固く，冷たい。それに比べ真空管の暖かい音は魅力的」などとよく言われたものです。
所が，いろいろと考える人がいるものだと思ったのは，タムラ製作所がアンプとスピーカーの間につなぐ，品名「サウンドフォーマー」なるものを市販しました。確かにトランジスタの音が柔らかくなったのです。
「大出力には特に有効とかで劇場などでいくつか採用されたようです」。その担当の方が東海大学出身の方で，佐藤誠先輩と同じ位の方だったと記憶しています。
しかし，サウンドフォーマーの重さ，半端ではなかった。トランスと同じですからこれはまさに「鉄の塊」です。
研究室で 2 セット購入して使ってました。
荻原さんの（その 2）を待ってます。
佐藤一

71 年工学部通信工学科卒の荻原　健一です。（その 2）　（2016 年 2 月 16 日火曜日）

本 ML にどこまでプライベートな内容をアップして良いのかわからないまま（その 1）を書いてしまいましたので不快に感じた方には申し訳ありません。
　木村先輩が“トリオ”ということでまた反応してしまいました。
トリオは以前，池上線の「千鳥町」という駅に近いところに工場があり，私はその隣駅でした。
かつては八重洲無線も近くにありました。
当方は 7M 主体でしたが，住宅地の中ではアンテナ事情も良くなく，徐々に 144 などの VHF 帯にシフトしていきました。しかし，母親から「近所の人からお宅の息子さんの声がテレビから聞こえる」という事を何度か聞いて，徐々に出力を下げてしまいました。（内緒ですが 100W 出力でした。当時の FM 東海は 1KW 出力？）
務めていた横河電機はアマチュア無線のクラブ局が何と「JA1YEW」というコールサインで，YEW は横河電機のロゴでしたので会社のマークとコールサインが一緒でした。
（クラブ員にはなりませんでしたが時々遊んでいました）

少しアマチュア無線から離れますが，ある時，フジテレビの鹿内 信隆会長にある人の紹介で合いました。
もちろん入社希望でしたが，あいにく既に採用はおわっており，八峯テレビというTBSで言うところの東通のようなフジテレビの下請けの製作会社を紹介され夏休み中バイトをやりました。
担当はカメラ助手で本番前の色調からケーブル裁きまでいいろいろやりました。
プランビコンという撮像管の時代でしたので，電源を入れて色が安定するのに数時間かかりましたので「小川宏ショウ」を担当する時は6時に電源を入れなければなりません。
その他はミュージックフェア，スター千一夜，タワーバラエティなどを担当。
タワーバラエティでは1年先輩の某放研OGとも一緒でした。

ミュージックフェアは1日で3本撮りすることもあり終わるのが深夜の2-3時になることもありました。
学生でありながら毎日のようにフジテレビの「お抱えハイヤー」での送り迎え（早朝，深夜業務の為）で，親から“こんないい加減な仕事は止めなさい！”と大ヒンシュクをかってしまいました。

そんな中で衝撃的な事件がありました。
三島 事件です。フジテレビの牛込柳町と自衛隊市ヶ谷駐屯地は目と鼻の距離でした。

その2終わり（またまたプライベートな内容ですみません）

<u>皆 様　（2016年2月17日水曜日）</u>

荻原さんのメールで思い出しました。皆さんご存知でしたか？
お話の中で「プランビコン」の時代とあります。
実は2号館のカメラ（講師用・記述用）の2台のカメラはプランビコンを使っていました。

当時，ビジコンが主流でしたので，最初はカメラも撮像管はビジコンを使っていましたが，暗い所では画像が悪く，残像が多くて使い物にならない関係もあってプランビコンに変更しました。しかし，コストが高く，学内でもいろいろとあったようですが，結局採用しました。撮像管が送られてきたときに 800×800(mm)位の木枠の中に円形のスプリングのついた金属の枠があり中にもう一つ円形の枠がスプリングで吊ってあり，その中に約200mm位の長さの筒が吊ってあり，その中に入っていました。
筒が木枠の向きに関係なく常に垂直になるようになっていました。これには脱帽でした。
多分，Philipsから直送してきたと思います。
また，東海大学丸2世にこのプランビコンを使ってマグロの生態や海の中の様子を撮影する目的でしたが，カメラを入れたケースのビスの腐食とケーブルの張力がもたずに「あ！」と言う間に沈んでしまい，大変な損失をしてしまいました。この時のカメラは水族館に展示してあります。（今あるか？わかりませんが･･･）
･･･････････思い出･･････････
また，記述の「東通」については日を改めて･･･
佐藤一

<u>皆様へ　（2016年2月17日水曜日）</u>

そうですか，萩原さん，横河電機にお勤めでしたか。千鳥町は「トリオ」の生産の本拠地です。

私は，本社（渋谷）勤務でしたので，会議で工場に行く時以外は，もっぱら渋谷でした。
また，直接萩原さんの会社と接する業務ではなかったので，電機業界の仲間として，メーデーなどで共に戦い親しみを感じています。
さてアマチュア無線ですが，トリオのクラブ局では「JA1YKX」という局がおなじみだったようです。
この局は「千鳥町」の「通信機事業部」に所属していて，エレクトロニクスショーやフェア，コンテストの時にデモ通信をしていたように思います。あの当時,ハムのライセンス保持者を調べたところ，200 名余のコールサインが登録されていて，さすがハムの会社だなと感じました。ちなみに私は「JH1NXA」です。
このコールで，当時まだ日本にいた大喜多君(JA1HNW)と彼が町田まで車で走る間，延々と交信したことが昨日のように思い出されます。
後に，宣伝部に「JA1ZGD」という「クラブ局」を創りましたが，これはもっぱら PR 用のクラブ局でした。

萩原さんの「TVI」（テレビノイズ）も大変だったようですが，東海大の「アマチュア無線クラブ」の「BCI」（ラジオノイズ）の事件は当時大変なものでした。
あれは1963～1964ごろだったと思いますが，真昼間「FM東海」の電波にのって，関東一円のサービスエリアに交信中のラグチュウが一部始終流れてしまったのですから。
原因は，「FM 東海」の送信アンテナと「ハムクラブ」の交信アンテナが，代々木校舎で近接していたことにあったようです。でもこの東海大学の「アマチュア無線クラブ」は失敗ばかりではありません。
1964 年 6 月 16 日午後 1 時 2 分に起こった，あの「新潟地震」の際には，目を見張る画期的な活躍をしました。当時（50 年前）のハムはまだ緊急時の（OSO 通信）の義務が保たれていて，大学の要請もあり，新潟出身の東海大学学生の家族や友人の安否を気づかい徹夜で交信して確かめ，わが放研も学内放送で刻一刻それを放送しました。
我々が「九州一周取材旅行」をした時も，1 号車と 2 号車間は，たしか 50MG のリグで交信しながら，行軍しました。携帯も，スマホもない時代に，わが放研は常に時代の先端を走っていたのだなあと，懐かしく思い出されます。
木村　正義

萩原です。　（2016 年 2 月 19 日金曜日）
私が付属高校の時代は東海大の「アマチュア無線クラブ」は大学コンテストをはじめ，JARL の様々なコンテストで常にトップクラスでアクティブな活動をしていました。（数局でオペレーションして交信した連番をトランシーバで送り合っていたという話を聞いたことがありますが，真偽は解りません）

横河電機の業務は残念ながら通信工学科やアマチュア無線とはほとんど関係なく，石油や化学プラントの自動制御システムの開発やアプリケーションエンジニアをやっていました。
一時はエッソ，モービルのガソリンスタンドのガソリンはほぼ全て私が担当したシステムで動いていました。
川崎と和歌山にある東亜燃料工業―現東燃ゼネラルを担当していましたので，石油精製や出荷システム（オンサイトシステム，オフサイトシステムと言います）のシステム開発をやりました。
後はコスモ石油/千葉や昭和石油/川崎・四日市・新潟そして化学会社では，住化や出光興産・石化，東燃石化のエチレンプラントなども手がけました。
一番の記憶は三菱油化（現三菱化学）の鹿島工場で制御システムのスタートアップ（プラント操業開始に伴う

制御システムの現地調整）時に既設のエチレンプラントがトラブってシャットダウンしてしまい，霧状のエチレンがもうもうとしている中を駆けて逃げました。先輩には工場内のどこに逃げてもエチレンプラントが爆発したら関係ないと言われましたが。
長い間にはいろいろなことがありますね。